



小さな空間にもたくさんの生命が暮らす



カシワ林の手入れをしながらの植生調査



間伐材を利用した炭焼き

北海道帯広市で活動する「エゾリスの会」は、エゾリスをはじめとする野生動物と人間とが、楽しく触れ合える環境づくりを目指す団体です。エゾリスなどの野生動物が餌をとり、ねぐらをつくり、繁殖する環境として、森林の生態系は重要な位置をもっています。そこで、会では、帯広市街の外周を取り巻く「帯広の森」の環境調査を行うとともに、間伐などの作業を定期的に行い、そこから得られる森の恵みを楽しみながら、森林づくりに取り組んでいます。

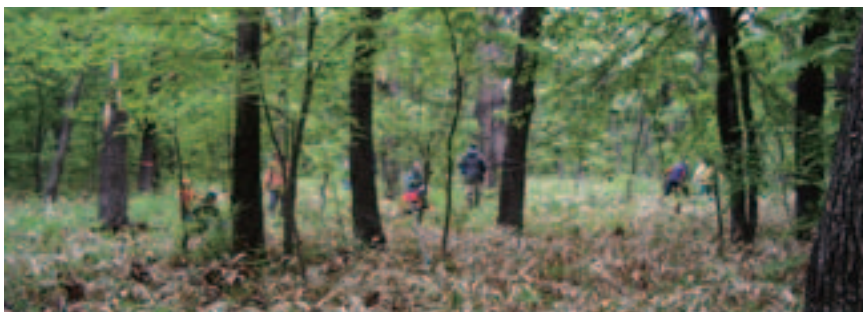
市街地を包み込む「帯広の森」

エゾリスの会の活動フィールド「帯広の森」は、面積406.5ヘクタール、幅約550m、延長約11kmにおよぶ都市公園です。もとは畑でしたが、昭和45年に「近代

田園都市」をテーマとした帯広市のまちづくりの一環として構想され、昭和50年から市民植樹祭が行なわれ、畑から森林へと成長してきました。

このグリーンベルトが、十勝川、札内川と共に市街地を包み込み、さらに都市部と農村部を区分し双方の交流の場としての役割を果たすことが期待されています。

25年目を迎えた 会の活動



森の豊かさを体感する自然観察会

エゾリスの会は、エゾリスをはじめとする野生動物と人間とが楽しく触れ合える環境づくりを目指して、昭和61年に発足しました。今年で25年目を迎える同会の活動内容



雪の中での間伐作業

は、自然観察会、エゾリスをはじめとする野生動物の生息環境調査、そして帯広の森の中にあるカシワ林をフィールドとして平成10年に始まり、現在も継続している「里山を作ろうプロジェクト」です。

「里山」という言葉は、北海道ではあまりなじみがありませんでしたが、会では、薪や堆肥にする落葉を集めたり、木材やホダ木を得たり、季節ごとに森でとれる味覚を楽しんだり、人の生活と深くかわる雑木林の保育を、里山づくりとして取り組んでいきます。

里山を作ろう プロジェクト

「里山を作ろうプロジェクト」のフィールドは、帯広の森陸上競技場に隣接した約60㎡に、道路拡幅整備に伴い伐採されたカシワ林内の表土を移した区域です。このフィールドで、植生を調査しながらの除草、草刈り、間伐、補植や植え替えなどの作業を継続して行いつつ、多様な種類の植物を発芽させ、自然林に近い状態に再生したいと会では考えています。



実生の苗を観察

毎月、第3日曜日の定例活動日には、会員をはじめ、小学生なども参加して、汗を流した後、林でとれたヨモギなどの野草を煮出したお茶や、除草作業でたセイヨウタンポポなどを使った料理を味わうなど、森の恵みを楽しみながら活動しています。

また、泊まり込みのキャンプで参加者の親睦を図りながら、間伐材を利用した炭焼きにもチャレンジ。失敗もありましたが、現在では技術も向上し、毎年恒例の行事となっています。

エゾリスの会

- 会員数 会員60名(平成23年1月現在)
- 森づくり活動フィールド 北海道帯広市「帯広の森 はぐくむ」
- 活動日 毎月第3日曜日
- ブログ <http://d.hatena.ne.jp/noken/>